*-

インターネット（インタビュー動画）と書籍と両方で記録し、後世に残す
「満蒙開拓団・満洲・敗戦・日中の歴史・帰国・帰国後の生活」

100年後に伝えたい口述の歴史資料

あの戦争さえなかったら　62人の中国残留孤児たち
（上）　　（下）

北海道・東北・中部・関東編（上）

第１章　北海道（7人）
第Ⅱ章　東北(9人）
第Ⅲ章　中部（18人）
第Ⅳ章　関東（6人）

関西・山陽・四国・九州・沖縄・中国の養父母編（下）

第Ⅴ章　関西（4人）
第Ⅵ章　山陽（3人）
第Ⅶ章　四国（4人）
第Ⅷ章　九州（5人）
第Ⅸ章　沖縄（5人）
第Ⅹ章　日本に帰らない選択をした人（1人）
第Ⅺ章　中国の養父母　（10人）

《著者プロフィール》

日本語教師ののち、中国帰国者の福祉問題に関心を持ち、大学院に進学し、社会福祉学修士取得。元上智社会福祉専門学校、植草短大講師。リタイア後、本格的にインタビューを再開。総合研究大学院大学満期退学。

《推薦文　一部抜粋　法政大学教授　高柳俊男先生》

ここで何よりも強調すべきは、彼女がかつて満州（中国東北部）で暮らした体験者を全国に訪ね歩き、二百人前後から聞き取りを行い、その映像を自身のホームページ「アーカイブス 中国残留孤児・残留婦人の証言」(https://kikokusya.wixsite.com/kikokusya）上にアップするという、地道な作業を永年にわたって続けてきたことである。そのことを知り、実際に映像のいくつかを見るに及んで、私は正直圧倒された。研究機関に籍を置く恵まれた立場の研究者でもないのに、どうしてここまでできるのだろうか？　もちろん、こうした作業を可能にする前提として、時間的な余裕や一定の経済的な裏付けは必要かもしれない。しかし、日本の満州政策の下で過酷な人生を送らざるを得なかった人々の声に耳を傾け、それを聞き書きとして残さねばという強い意思、さらには一種の使命感のようなものがなければ、そもそも不可能な営みなのではないか？それ以来、私にとって藤沼さんは、一目も二目も置く人物であり、脱帽の対象であり続けている。

貴店番線印	注文数	津成書院　　人文/社会
		あの戦争さえなかったら　62人の中国残留孤児たち（上） 藤沼敏子著　A5版並製 2020年7月発売/本体2500円/ISBN978-4-9910182-1-3
		あの戦争さえなかったら　62人の中国残留孤児たち（下） 藤沼敏子著　A5版並製 2020年7月発売/本体2500円/ISBN978-4-9910182-2-0

ご注文はJRCへ　　FAX03-3294-2177

JRC経由ですべての取次へ出荷可能　返品は長期に承ります（返品条件付き注文扱い）